

令和6年度の事業報告書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

特定非営利活動法人 ぎふ多胎ネット

1 事業の成果

- ①SDGs の理念に基づき、多胎妊婦を誰 1 人取り残さず支援につなぐ事業を継続し、多胎家庭を妊娠期から支援することができ、孤立を防ぐことができた。また、地域行政や医療と連携した支援の仕組みを活用して地域包括的支援が推進できた。
- ②妊娠期から育児期の切れ目のない支援により、孤立しがちな多胎家庭の課題を早期に発見し、早期介入により地域につなぎ、虐待防止が図れた。今年度は特に、精神疾患・外国籍・貧困・医療的ケアが必要な家庭などハイリスク家庭に頻回に訪問し、自立に向けて支援することができた。
- ③多胎支援を担う人材が育成でき、県内各地での支援事業が可能となった。
- ④様々な多胎に関する情報を発信できたことで、多胎家庭の孤立や情報不足を防ぐと共に社会に多胎支援の必要性やあり方を啓発できた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	事業費の金額 (単位:千円)
多胎家庭支援事業	多胎プレパパママ教室 多胎の妊娠・出産に関する講義と先輩パパママとの交流会	(A)5月～3月の日曜日、全10回 13:30～15:30 (B)岐阜、東濃、中濃、西濃、飛騨の5地域で各2回の対面型とWEBとのハイブリッド形式にて実施 (C)のべ88人	(D)・多胎妊婦とその家族 ・保健師など行政関係者 (E)のべ100人	766
〃	多胎児家族サポート事業 母子手帳交付時より出産まで多胎妊婦のサポートを行う 多胎に関する情報の収集と発信	(A)4月～3月の随時 (B)岐阜県内と県外の多胎支援者宅 (C)のべ4008人	(D)多胎育児者・多胎妊婦とその家族 ・多胎支援者 ・保健師など行政関係者 ・助産師など医療関係者 ・保育士など教育関係者 ・多胎研究者 (E)多数	8094
〃	多胎妊婦病院サポート 入院・通院中の多胎妊婦への訪問による相談活動	(A)4月～3月の毎月1回 全12回 (B)県立多治見病院、岐阜県総合医療センター(R7.1～)、大垣市民病院(R7.3～)	(D)多胎妊産婦とその家族 (E)のべ34人	170

		(C)のべ 31 人		
〃	多胎児健診サポート 〔4ヶ月児・10ヶ月児健診の介助と育児相談及び赤ちゃん訪問の同行〕	(A) 4月～3月の随時 (B) 岐阜県下の各保健センター他 (C) のべ 135 人	(D) 多胎児とその育児者 (E) のべ 405 人	488
多胎支援に関する人材育成事業	研修会の開催 ・ピアサポートー養成講座 ・地域多胎サポートー養成講座 ・ピアサポートーフォローアップ講座 ・事例研修会 ・事業評価会	(A) 5月～3月 (B) ピアサポートー養成講座の一部を WEB で行った他は対面型で実施 (C) のべ 115 人	(D) 多胎支援者、 ・保健師など行政関係者 ・助産師など医療関係者、 ・保育士など教育関係者、 ・多胎研究者 (E) 数多	371
地域活性化事業	多胎育児教室 〔対面式の育児教室と WEB のおしゃべり会を実施。おおむね 0 歳～3歳の多胎児とその養育者また多胎妊婦を対象に育児相談、仲間づくりのサポート パパのおしゃべり会も実施〕	(A) 4月～3月 10:00～11:30 (B) 育児教室は岐阜、東濃、中濃、西濃、飛騨の 5 地域で各 4 回 WEB おしゃべり会は 10 回実施 パパのおしゃべり会 2 回 (C) のべ 204 人	(D) 多胎児とその養育者 多胎妊婦 (E) のべ 574 人	954
〃	多胎のつどいサポート 〔行政などが開催する多胎のつどいでの育児相談と仲間づくりのサポート〕	(A) 4月～3月 (B) 10か所(のべ 34 回) (C) のべ 99 人	(D) 多胎児とその養育者 (E) のべ 483 人	406
〃	多胎ファミリーフェス タ 大学のお兄さんお姉さんと遊ぼう、企業ブース、ハンドマッサージ、育児相談、リサイクル会、おひるねアート	(A) 11月 30 日 10:00～12:30 (B) 中部学院大学 関キャンパス (C) のべ 22 人	(D) 多胎児とその家族、多胎妊婦とその家族 ・中部学院大短期大学部学生 (E) 47 家族 (21 人) 学生 30 名	54
多胎に関する情報発信事業	多胎に関する情報の収集と発信 ・ホームページの管理運営 ・公式 LINE の管理運営 ・「ニュースレター」の発行	(A) 4月～3月の随時 (B) 岐阜県内と県外の多胎支援者宅 (C) のべ 22 人	(D) 多胎育児者 ・多胎妊婦とその家族 ・多胎支援者 ・保健師など行政関係者 ・助産師など医療関係者 ・保育士など教育	64

			関係者 ・多胎研究者 (E)多数	
--	--	--	------------------------	--